

総合計画審議会（第1部会）の報告（案）

1. 表現について

総合計画は一般の市民が見るものなので、市民から見て分かりやすい表現を心がけること。

2. 現状と課題、施策・取組、指標のバランス

現状と課題、重点取組、指標のバランスが悪く、一連のものとなっていない。

3. 新しい公共の考え方の反映

地域の活動と行政が進める取組とを一体的に進めるというのが、全体会議の中で出て来ている「新しい公共」の形である。その考えを反映した内容とすること。

4. 市独自の取組などの明示

今出されている内容は、現在の特徴ある取組みや、今後行政として何をしていくのかというビジョンが見えない。現在どのような特徴があり、今後何をするのかのメッセージを今一度精査し、具体的な方向性を示すこと。

5. 指標について

目標（目指すところ）が見える指標、市の意気込みが感じられるような内容とすること。

6. 総合的な施策・取組について

複数の施策が連携することが分かる内容とすること。

7. その他

- ① 「新しい公共」という観点から、行政が講座の機会や場を提供することよりも、市民の自主的な活動に対し、行政がいかにその環境づくりをし、活動を支援していくかという視点が重要である。
- ② 【3 市民・事業者・団体の取組】は、「誰が何に向けてどうするのか」が分かりにくいので、もう少し具体的に述べることで、今回の計画が「新しい公共」を目指しているという意味を示せないか。
- ③ 市としては地域ごとに問題を提起しながら、子育て問題も一般市民の難問題も、地域ごとに吹田市の発展に向けた意見を出し合ってまとめたものを、吹田市が援助しながら発展させていくという形が広がっている。市にリードしてもらった方が良い場合もあるが、そういうところの判断が難しい。
- ④ 【3 市民・事業者・団体の取組】のところで独自性を出すべきではないか。事例ベースで徐々に「新しい公共」とは何かというところをボトムアップしていくとよいのではないか。
- ⑤ 今回の計画は、まちづくりの理想を掲げて、7年間で頑張ればできる範囲という設定をされて考えられているような計画に感じる。

総合計画審議会（第2部会）の報告（案）

<基本計画の構成に関する指摘>

ルートを構成する「まちのイメージ」の括り方は、行政の組織割り（縦割り）になっているが、市民目線からの構成など、別の括り方もあるのではないかと。

<基本計画の内容に関する指摘>

1. 施策・取組の方向性を明確に

何を重点的な課題と認識し、どこに取り組みなければならないか、施策の具体的な内容や行政の取組の方向性が明確に分かるように書いてほしい。

2. 指標の見直し

指標はできるかぎり数値化し、できないものも基準を示すなどの工夫により、取組の進捗が管理できるようにすべきである。

3. 他の施策との連携を具体的かつ明確に

他の施策との連携は、連携先を示すだけでなく、どのように連携するのか、その内容を書いてほしい。連携には、向こうの施策に対してこちらの施策が貢献する場合と、こちらの施策に対して向こうの施策に貢献してほしい場合があり、それを明確に書いてほしい。

4. 行政の役割を明確に

協働を進めるうえで、行政としてどのような役割を果たすのか、情報提供、活動支援、意識啓発など、行政の役割をもっと表に出していく方が良い。

5. 協働を意識した表現に

「地域の防災力を向上させます」や「危機管理体制を確立させます」など、上から目線の表現について、書きぶりを工夫してほしい。

6. 新たな課題への対応

考え方が従来型である。時代の変化を敏感に感じ、新しい方向性も盛り込むことが必要である。（例えば、ソーシャルビジネスやシェアハウスなど）

7. 全体をととして

- (1) 価値観や吹田らしさの共有
 - ① 地域の特性や何に価値を置くのかということの共有（価値観や吹田らしさの共有）が重要
 - ② 市民がどのようなまちを望んでいるのか、大きな目標が必要
(みんなが誇れるようなもの、何を活用すればというようなもの)
 - ③ 重点プロジェクトを打ち出すのも一つの方法である。
- (2) 部局横断的で一つの目標に向かっていくということを理念に盛り込む方法もある
- (3) 総合計画が最上位計画という意識があるのか。
分野別計画が優先されるような図式が見られる。